

---

# ライトオブFriends

台風X号

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ライトオブFriends

### 【NZコード】

N7375S

### 【作者名】

台風X号

### 【あらすじ】

「メディ風味があり、面白い風潮に。台風X号オールスターズの人形アニメのキャラクターのシリーズが登場。

## 第一話 最後の惑星「夜向星」（前書き）

小説OP主題歌「僕等の絆」

## 第一話 最後の惑星「夜富星」

太陽系は、悪の存在「ダークネスラファイア」というチームに占領されていた。

しかし、地球の反対側を回る惑星「夜富星」には、攻撃できない状態が続いていた。

そこにすむものが強大なパワーを持つているからである。

ダークネスラファイアの一人、アアンタンズとワヴカは話し合っていた。

「気をつけないとキッズワインとピンク一弾口モにばれるぞ。」

「すみませんアアンタンズ殿。」

しかし、此の二人はばれていた。

フロッグマンとラッティに。

「敵を見つけましたぜボス。」

「ああ、ラッティゴ苦労。」

フロッグマンはワインを飲みながらブラックホールを作っていた。

ちなみにフロッグマンのブラックホールは吸い込む系統のものではなく、攻撃系、防御系のブラックホールであるため、周りのものを

吸い込まなくて済む。

「ブラックホールキャノン！」

「ああ！俺が攻撃したかったのに。」

アアンタンズ達にブラックホールキャノンが命中した。

ワヴカだけが生き残り、アアンタンズは黒じげになつて魂が抜けて死亡。

ワヴカは、ピンクニヨロモとキッズワインに見つかった。

「やばー！」

「ああーいた。」

「キッズワイン、ここは私に任して。」

「うん分かった。」

「高速電光石火乃舞！」

ワヴカは、空高く舞いあげられて何処かへと行つた。

キッズワインは、フロッグマンとラッティを見つけた。

「なにしてるんですかお一人さん。」

ビクッと反応した二人組。フロッグマンはこう言つた。

「えーとね、アンタレスとサブちゃんの決闘場所がここだと聞いたんだ・・・という夢を見たんだ。」

キッズワインは、二三回しながら殺意の闘志を燃やしていた。

「ラッティ、此処は逃げよ。キッズワインに殺されかねない。」

「えつ、といひとは念願のリーダーだ！フロッグマン死んでいけ――！」

「てめえ！殺す！」

フロッグマンは、青ざめた。キッズワインが聖雷をバチバチ言わせているところを見たからである。

「ブラックホールの・・・」

「聖雷アルファ！」

「防ぎ切れなかつたー！」

フロッグマン、あまりの電撃攻撃で氣絶と絶望。

ラッティもぬか喜びだった。

「ラッティ、貴様を噛み殺す。」

シャーベルタイガーが近くに来ていた。

「なぜ、貴様が此處に。格なるつえは、ジェットバースト！」

ラッティの手から空氣砲が放たれたのだがしょぼい・・・

「なんで、俺はこうなんだー！」

「刹牙草」  
カタルシス

ラッティ、体がバラバラになり退場・・・

つづく

「てか、続くのか？」

「続いてもよくな。」

次回 第一話 南極ちゃんの憂鬱。お楽しみに！

## 第一話 最後の惑星「夜向星」（後書き）

次回も怒涛なコメティになるのかもね。感想お願いします。

# 第一話 南極ちやんの憂鬱

ラヴィットは、いつものように遊んでいた。

その上は南極ちゃんにとって憂鬱なことであった。

あの娘、かわいすぎるのと子供があるのよ。

北極ちゃんは、とも思ってしない

あなた二て姫姫深しのね

別は和姫嫁湯くないからね

國極如意ノ  
シテハリニ ほい

元道が、人をもじらうと、兩極が、人の顔が、元へなつた。

「さわね赤道ちゃん！お姉ちゃん少しだけ出て行って！」

南極ちゃんは、イライラしていた。

「ラヴィット。あなたなんか私が鍛えなおしてやるわ。殺しの程度にね。」

怖いです南極ちゃん。

南極ちゅやんは、ラヴィットのこねとじに来た。

「こりゃ、南極ちゅやん。」

「ラヴィット、あなたね、けじめつけたりだつ。」

「えつ、はじめ？」

「やうよ。私は自分をきれいにしない。だつてほかのみんなもやつしてごるのよ。」

「私つて、きれいじゃないといけないもん。」

「はあー、それでよくモ力にセクハラされているでしょ。」

「やつかな？体触られているだけだけど……。」

「それをセクハラつていうのよー。私だってモ力にセクハラされた経験があるのよ。だからできるだけきれいにならない程度にしているのよ。」

ラヴィットは、南極ちゅやんの空氣を見ていた。

「殺氣がすいわ。」

「本題に戻るわよ。ラヴィットあなた血だらけなつてくれない？」

狂氣的な声でラヴィットを見つめた。

「何、なに……。」

ラヴィットは怖くなり涙目になり始めた。

南極ちゃんは隠し持つてたカッターナイフをラヴィットに見せた。

「大丈夫よ、痛いのは最初だから。」

「ラヴィットの運命は・・・

## 第一話 南極ちゃんの憂鬱（後書き）

次回 第二話 恐怖南極ちゃんの狂氣。お楽しみにー。

## 第三話 恐怖南極ちゃんの狂氣

カッターナイフを振り回した南極ちゃん。

ラヴィットたちは、必死に逃げた。

ラヴィットは、狂氣の原因の証拠を見つけた。

「まさか、南極ちゃん操られているの。」

南極ちゃんを操っている謎の物体それを作った薔薇を持った黄色の犬がいた。

「太陽系で唯一、残つた星だ。人々を利用して侵略を行える。」

彼の名は、レントヴ・ケーロという人物である。

能力は、物を使い人々を操作する程度の能力

「南極ちゃんの後ろに回らないと。」

ラヴィットは、南極のカッターナイフを抜けて南極ちゃんを持ち上げた。

「『めん、南極ちゃん投げるわ。』

ラヴィットは、一見かわいいウサギ娘だが、怪力の持ち主である。

南極ちゃんは、レントヴに当たった。

「痛いわね。」

「『めん、南極ちゃん。』

「ラヴィットいいのよ。ここにいる犬が真犯人だなんて。」

「やめろ！そのカッターナイフで・・・」

「私、カッターナイフじゃなくても氷で殺せれるのよ。」

「ひゃあああああああああああ！」

南極ちやんとラヴィットはその場を後にした。

第三話 憲怖南極ちりやんの狂氣（後書き）

次回 第四話 チームモコの苦難。お楽しみに！

## 第四話 チームモロの苦難

チームモロは、緊迫した状態になっていた。

敵軍を感知するレーダーで西に9体、東に6体、南にチームフロッグマンの奴ら4体が接近していた。

「応援要請しますか？」

ミネルバが言った。

しかしモロは、この状況を把握した。

「まだ、ここで応援要請しても、応援要請した方のチームに攻撃を受ける。それを避ける作戦を立てなければ。」

「モロ、三つのチームに分かれて行動取りましょう。」

モロは、三つのチームに分かれて行動をとることとした。

モロとミネルバとニヨロトリオ（長男）とシロヤヤギとともに、東の軍をつぶしに行つた。

イルカーンとオックセとシカゴとニヨロトリオ（三男）は、西の軍をつぶしに行つた。

ラヴィットとリョウゲイとニヨロトリオ（次男）とヒレレイは、チームフロッグマンのチームの方に向かつた。

敵軍は、アニメマルアンドロイドたちであった。

「元素針！」

モコの攻撃で身動きを閉じた。

シロヤギの煙の攻撃とミネルバの斧型ハンマーが合体してアンドロイドを破壊した。

シカゴ達は、アンドロイドを攻撃しまくっていた。

「スーパーハイドロポンプ！」

「イルカの獄碎！」

「コード・ハンティング！」

「鹿の最大攻撃！」

シカゴ達の方もアンドロイドを全滅させた。

## 第四話 チームモードの苦難（後書き）

次回 第五話 リーダー、トントチ現る！お楽しみに！

## 第五話 リーダー、トントチ現るー

リョウゲイ達は、フロッグマンが率いるチームと激突していた。

「わたくしつできれい?」

「全然、綺麗じゃないよ。むしろ口から憂鬱弾つて気持ち悪いよ。」

ラヴィットが挑発していた。

「むかつくのよ、あるあるであります這麼いのホエールと一緒によ。」

「貴様、敵軍と一緒にありますねえ!」

「また、始ました。」

「アロトリオ(次男)は、フロッグマンに言った。

「お前ひて、大変だな。馬鹿どもと一緒に戦つているのひて。」

「馬鹿?はんつ、俺のところに馬鹿はない。くたばれブラックホールキヤノン!」

「アロトリオ(次男)は、攻撃を受けて吹き飛ばされてしまった。

モハ達は、リーダー・トントチと戦っていた。

「ハイドロポンプー!」

「そんなものは効きません。」

一方・・・サブちゃん達は・・・

「アンタレス、どこ行つた。」

「つて何、韓国語で台風X号オールスターZの応援を呼び掛けてい  
るんだ！」

1

一方、トントチとの戦いは、一步も譲られない長期戦になつていた。

「何もかも、受け止める。」

「イルカーン達よ早く来てくれ。」

## 第五話 リーダー、トントチ現るー（後書き）

次回 第六話止められない敵。お楽しみに！  
日本でも流行っていますかね？台風X号オールスターーズもとい台風  
ワールド。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7375s/>

---

ライトオブFriends

2011年10月9日22時52分発行